

## 平成30年度 第2回久留米市総合計画審議会（要旨）

### 1 開催日時

平成31年3月20日(水) 14時00分～16時00分

### 2 会場

久留米商工会館 5階大ホール

### 3 出席委員（順不同）

委員17名

荒井功委員（会長）、寺崎眞委員（副会長）、坂井政樹委員、原口和人委員、山田貴生委員、早田耕一郎委員、江頭理江委員、中島誠治委員（穴見英三委員代理）、家永光啓委員、合原久美子委員、古賀晃委員、吉岡マサヨ委員、小松宏吉委員、矢次恵美子委員、山下永子委員、武藤桐子委員、半田啓祐委員、

### 4 欠席者

委員3名

大森洋子委員、組坂幸喜委員、高山美佳委員

### 【議事次第】

#### 1 開会

#### 2 報告事項

（1）関係団体懇談会について

（2）市民提案について

（3）職員ワークショップについて

#### 3 協議事項

（1）新総合計画次期基本計画の総論について

（2）新総合計画次期基本計画の各論について

#### 4 その他

#### 5 閉会

### 【配付資料】

・久留米市新総合計画審議会委員名簿

・・・資料（1）

・久留米市新総合計画次期基本計画策定に当たっての市の基本方針・・・資料（2）

- ・久留米市新総合計画次期基本計画策定に係る関係団体懇談会  
「くるめのこれからを語ろう」の開催について . . . 資料 (3)
- ・久留米市新総合計画次期基本計画策定に係る市民意見提案の  
募集について . . . 資料 (4)
- ・久留米市新総合計画次期基本計画策定に係る職員ワークショ  
ップの開催について . . . 資料 (5)
- ・次期基本計画の総論について (案) . . . 資料 (6)
- ・次期基本計画の各論について (案) . . . 資料 (7)
- ・第2回久留米市総合計画審議会座席表 . . . 参考資料①
- ・久留米市総合計画審議会規則 . . . 参考資料②
- ・久留米市総合計画審議会傍聴要領 . . . 参考資料③

## 議事録要旨

### 1 開会

- 事務局より、過半数の委員が出席していることにより、規則に基づき会議が成立していることを報告
- 荒井会長より、傍聴希望者について確認  
傍聴希望者なし

### 2 報告事項

- (1) 関係団体懇談会について
  - 事務局より、関係団体懇談会の開催状況について説明
- (2) 市民提案について
  - 事務局より、市民提案の募集結果について説明
- (3) 職員ワークショップについて
  - 事務局より、職員ワークショップの開催状況について説明

### 〈質疑・応答〉

○早田耕一郎委員

関係団体懇談会について、出席団体96団体の抽出基準はあるか。

■事務局

関係団体懇談会の開催主旨を踏まえ、市の各部局より、関係団体を推薦してもらい、それぞれの話題に沿って議論できる人を団体より推薦していただいた。結果として、それらを積み上げると96団体となった。

### 3 協議事項

#### (1) 新総合計画次期基本計画の総論について

##### ■事務局より、新総合計画次期基本計画の総論の案について説明

#### 《質疑・応答》

##### ○坂井政樹委員

資料（６）の（その他の変更点）の例にある「構造的な労働力人口の変更」とはどのような意味か。

##### ■事務局

人口の視点で懸念されているのは2025年問題であり、団塊の世代が後期高齢者に突入するという事。現在は、高齢者人口が増大する局面となっているが、その次には2040年問題が控えている。団塊ジュニアが高齢者となり、現役世代が更に減少していく。そのような意味で、構造的な労働力人口の減少を踏まえたいと考えているものである。労働力人口が減少していくと、税収減や社会保障費の増大など、問題となりつつあるものがさらに顕在化していくので、現状認識を踏まえて、そうしたことを記載している。

##### ○山下永子委員

（その他の変更点について）の例は重要で、この例に記載されているものだけでなく、Society5.0、SDGs、持続的発展のゴール設定、EBPM（証拠に基づく政策立案）など、そうしたものがしっかり書き込まれていないといけない。AIについても、一部だけの例が出てしまうと視野が小さくなる。また、スマートコミュニティやスマートシティなどが抜け落ちている。各論を深めるためにも、これらを例としてしっかりと示していただきたい。また、資料（7）の「今後想定される強化すべき取り組み」の内容は、今までどおりのテーマしか扱っておらず、ここ数年で重要なテーマとなっているものが抜け落ちているので、その点を検討いただきたい。

##### ■事務局

提示いただいた言葉や表現については参考とさせていただきたい。また、これから出てくる新しい言葉や表現についても、必要に応じて適切に盛り込めるよう、情報収集を続けていきたい。基礎調査においても、第3次基本計画策定後からの変化として、色々と新しい言葉や状況変化等が出てきているので、次期基本計画では適切な箇所に「こういうことが新たに加わった」ということを表記したい。

○合原久美子委員

新しい言葉を使用するにあたっては、その意味が伝わるように、しっかりと説明してもらいたい。今回の資料についても、読んだだけではわからない箇所が多々あり、計画策定に当たっては一般の人にもわかりやすい記述をお願いしたい。

■事務局

第3次基本計画でも、冊子終盤に用語解説を設けたが、次期基本計画においても同様に、用語解説集を掲載するなど市民にわかりやすい工夫をしていきたい。

○早田耕一郎委員

前回の計画策定では、達成困難な目標を掲げ、不釣り合いな対策を書くなど、KPIの設定においてずさんな点があったのではないかと。今回の計画策定に当たっては、KPIを達成する具体的な手立てまでをしっかりと整理して取り組んでほしい。

■事務局

現在の第3次基本計画では、政策評価制度に基づく毎年度の評価に変わったこともあり、KPIについても、毎年速やかに把握できる適切な数字や統計などを模索し、試行錯誤しながら設定した経過があった。このようなことが一因し、一部分かりづらいものもあったかもしれないが、次期基本計画ではそのような経験を踏まえ、市民に伝えるよう、努力していきたい。

○荒井功会長

KPIの設定は、トライアンドエラーがあるもので、使い続けるうちに、より現実的なKPIや他の適切なKPIが出てくることもあるので、節度をもった理性的なKPIとなるよう、委員の皆さんのご意見も参考にしつつ作っていただきたい。

(2) 新総合計画次期基本計画の各論について

■事務局より、新総合計画次期基本計画の各論の案について説明

〈質疑・応答〉

○山下永子委員

「今後想定される強化すべき取り組み」の内容のレベルが揃っていないのではないかと。特に、「ケニア・カザフスタン事前キャンプ受入対応」は2年で終わる実施計画のレベルであり、基本計画上に表記するのであれば、各地で開催されるMICEを事前に想定して、イベント前のミーティング等を誘致するなど、将来的な視点での時間的な整理もしていただきたい。

また、社会変化のスピードがこれまでに比べて早いことを踏まえて、一つの提案だが、常に久留米市のこと、市の戦略などを考えるシンクタンク的なものについて検討しても良いのではないか。特に、若手の IT 人材を含めて、久留米市の戦略を常に考える人材が必要であり、これは、通常業務に追われる市職員では対応が困難であると思われるので、政策立案に資するデータ収集や戦略的政策の構築ができるような体制の構築について検討していただきたい。

#### ■事務局

社会変化のスピードについていくことは重要であり、ご提案をどのような形で反映できるのかを検討させていただきたい。

#### ○山下永子委員

10～30万人規模で、財力、人材リソース、大学などもなく、社会の変化にどのように対応すべきか分からない自治体が数多く存在する中、久留米市は大学がたくさんあり、アドバイスをいただくことができる環境がある。新しいやり方でそれらの自治体に模範を見せつつ、久留米市の動きから目が離せないくらいになったらいいのではないか。久留米市はそれだけのポテンシャルがある都市だ。

#### ○荒井功会長

久留米には3つの大学があるので、その人材をうまく活用する手はある。大学間ではコンソーシアムも組まれており、市と連携する動きもあるので、市から働きかければ対応してくれるだろう。新しい組織のあり方についても工夫してみると良いのではないか。次期基本計画の中への落とし込み方については難しいところはあるが、検討してみる価値はある。

#### ○吉岡マサヨ委員

久留米市として基本的に守っていかないといけないものは必ず入れてほしい。特に、セーフティネットなどは恒久的に変わらないよう明記してほしい。社会変化のスピードに対応して個々の事業を変更することがあっても、基本的な柱はしっかりと残していただきたい。

#### ○江頭理江委員

各論は、久留米市の基本計画だから、久留米市らしさを出していくべきであり、具体的な内容に取り組んでいくことが必要である。例えば、アジアの技術向上に久留米が寄与するというのは、必ずしもアジアでなくても良いのではないか。あえてアジアを出すのであれば、市の特徴の部分をより具体的に入れていくべきだ。

また、次期基本計画に市民が誇りを持つようなシビックプライドの醸成の部分を出す、久留米らしさが出てくるのではないかと。市民が自ら誇りを持って創り上げていく街となるよう、シビックプライドの醸成に取り組むことで、久留米らしさがさらに出てくると考える。

○山下永子委員

もう一つ重要な側面として、社会包摂がある。社会的に弱い立場にある者であっても久留米市民の一人であるというニュアンスがあったほうが良い。

○古賀晃委員

学校現場では教室が全然足りていないという状況がある。学校規模の適正規模化が、結果的に子どもの豊かな学びにつながっていないことについて、早急に対応してほしい。また、旧4町の学校では、学校の統合や適正規模化によって地域コミュニティの行方を懸念する声が上がっており、地域コミュニティを今後どのように活性化していくか求められる。言い換えれば、旧4町から、「合併して良かった」という声がどのように聞こえてくるかが、次期基本計画において大切な視点ではないか。

■事務局

教育や地域コミュニティ所管の部局も様々な施策に取り組んでおり、今後、反映すべきものは反映していきたい。

○武藤桐子委員

人権の尊重の内容のところだが、「性的少数者への対応」と表記すると、後ろ向きな響きがあるのではないかと感じる。ここは、多様な存在を包摂していくという捉え方をしていただきたい。また、人権は、マイノリティ、マジョリティーの別なく、誰にでも関連することであり、人権観を広げた内容にしてほしい。さらに、市民意識調査の分析を担当していて、旧4町と旧久留米市との住民の意識にギャップを感じている。旧4町の方は合併後の久留米市にピンとこない方が多い。合併後の久留米市の取組が今後ますます大事になってくる。

○合原久美子委員

子どもが職業体験できる楽しい施設としてキッズニアがあるが、体験にはお金がかかる。そこで、学校教育の中に職業体験ができる課程を設けて、例えば、保護者から費用を徴収するなどして、子どもに職業体験ができるようにしていただければ喜ばしい。

○荒井功会長

これは産業界の20年後、30年後にかかる話だ。費用負担などについて教育の現場と産業界、行政が一体となり、小さい時から子どもを育てるようなことをしておくと、将来そうした人が久留米を離れても、将来的に戻って来る、あるいは久留米市の中で新しい事業を起こしたりすることにつながるのではないか。

○山下永子委員

男女共同参画の施策においても、職業選択の部分をもっと重点的に取り組んでもいいのではないか。地元の学生が久留米の企業に勤めることで、ワーク・イン・ライフが実現できる、そうした、他の地域より進んだまちの姿を目指して、施策を打ち出していったらどうか。

○荒井功会長

久留米は女性の割合も多く、女性の力をいかに引き出すかはカギとなる。女性はサービス業への従事が多いが、今後の取り組み方次第では、他の分野にも将来が開けることにつながるのではないか。

○吉岡マサヨ委員

男女共同参画の部分で、現行計画に入っているドメスティックバイオレンス防止については、継続して取り組んでほしい。現行計画に入っているもので、必要な施策については残してほしい。

○矢次恵美子委員

各論は大分類、中分類、小分類と縦の体系で整理されている。例えば、石橋文化センターや美術館の活用について、市民の満足度で測ることを想定されているが、こうした施設は、本来、市外から客を呼んで観光的なところを目指さないといけないのではないか。縦の流れだけを意識して整理すると、そのようなことが基本計画に入れにくくなるので、横の連携を意識した提案も入れていくべきだ。

■事務局

各論の整理については現在各部と調整中であり、今後は、個別の事業から逆算して、どのように落とし込むかというような視点も必要になると思うので、委員からご提案いただいた内容も、最終的な整え方の中では必要になると認識している。

○原口和人委員

「市内在住外国人への対応」という表現は抽象的である。今後、外国人労働者が増加する中で、受入体制を持っているのは重要であり、犯罪抑止の意味からも「外国人をコミュニティで支える」や「外国人を受け入れられる体制づくり」など、具体的に表記すべきではないか。コミュニティで受け入れるという感覚を持って進めていただきたい。

■事務局

久留米市が、外国人から見てどれだけ訪れたいと思われる地域になるのか考えることは、一方で、住みやすさを高めていくために、自分たちで何かをするという働きかけになるのではないかと考える。文化の違い、価値観の違いを受け入れるという視点が必要とされている。

○中島誠治委員（穴見英三委員代理）

久留米商工会議所においても、地元の商業高校と一緒に職業体験、キャリア教育を実践しており、生徒らがキャリア教育に参加することによって市内企業を知り、ひいては就職するというつながりもできるのではないかと考えている。久留米の会議所単体ではなく、県南の会議所や金融機関等と連携するような広域的な取組が重要性を増しているので、久留米市の総合計画に広域の観点を加えると、より充実した計画になるのではないか。

○半田啓祐委員

「拠点都市の役割を果たすまち」の積極的な情報発信に関して、市の職員でデザインに強い人が担当することで、情報発信がスムーズになり、コミュニケーションが生まれ、色々な人が関わる体制になることが期待される。

また、「公共空間への民間活力の導入」について、我々も民間団体、民間企業として色々ところで協力していけたら良いが、そのためにも、プロセスの段階から関わらせてもらい、プロセスを共有させてもらえるのが一番取り組みやすい。

さらに、各団体と情報共有できるネットワークの構築は、公開可能な情報を流してもらえると、民間が独自に行っている取組が他の分野へもつながっていくのではないかと考える。併せて、市と関わっていく中で感じていることとして、市の内部で横の連携ができていると、民間として更に関わりやすくなる。横の連携をする部署を設けていただけたらありがたい。

○荒井功会長

行政と民間の関わり方は、知恵の出どころである。今日委員の皆さんからいただいたご意見は、事務局で適宜反映していただき、また委員の方にお諮りしていただきたい。

#### 4 その他

○坂井政樹委員

総合計画は長期スパンの計画であるが、今、時代社会のスピードは目まぐるしく変わっている。その中で、SDGs という 20～30 年にわたる共有の目標を目指して推進していくというのは日本における一つの大きな柱にもなっている。今日、委員の皆さんから出た様々なご意見も、紐解いてみると全てこの SDGs の目標設定につながっていくのではないかと。久留米市が今後も持続可能な行政を目指していく中での柱として、SDGs に特化した行政が総合計画の中にしっかりと根付くことを期待している。

#### ■事務局

SDGs は最適配分という考え方において出てくる言葉だが、第 3 次基本計画においても「持続的発展へ向けた都市づくりの総合的課題」を基本的視点の一番に挙げており、その精神は次の基本計画でも引き継ぐべきだと考える。また、最適配分化に向けた一つ的手段として様々な分野で共有されるのは SDGs の考え方ではないかというご意見も参考にさせていただきながら、次期計画にできるだけ反映させていきたい。

#### ■事務局より

- ①本日の会議議事録は、事務局で作成し、委員に確認した上で公開したい。
- ②次回の審議会は 6 月頃を目途に開催予定。後日事務局より連絡させていただく。

#### 5 閉会